

## 2. 学校における食育・歯科保健の実践と課題

宝塚市立西谷小学校  
栄養教諭 脇本 景子

現在、学校保健の現場では、外部の専門的な教育力を積極的に取り入れる動きが広まりつつある。なかでも、歯科保健に関しては、学校歯科医や地域の診療所をはじめ、保健所や企業等、関連機関と連携した様々な実践がみられるようになった。

これらの実践を生かし、効率のよい教育を展開するために重要な、しかし現場では見落とされがちな視点について述べる。

まず、校内で行う歯科保健指導は「歯・口の健康づくり」として食育と一体化して行う必要がある。児童期の子どもの歯の健康と食生活を含む生活習慣との関連は明らかであり、調理への関心や野菜果物の摂取頻度が咀嚼意識に関係することからも、食育や関係教科の内容と歯科保健指導を関連付け、有機的に連携を図って取り組むことが重要である。

第二に、健康教育の評価を学習目標の達成のみならず行動目標の達成におくという考え方である。主に一次予防の教育を担う学校において、健康教育の目的は、疾病予防のための健康的な生活習慣を身につけさせることにある。ところが、現場で行われている実践の多くは、健康に関する知識や考え方、行動の模範を示すといった内容にとどまり、実際の行動を日常生活に位置づけ、維持継続させるためのカリキュラムは少なく、行動の変容までを見届けるに至らないのが現状である。

第三に、ライフステージに応じて展開される様々な分野の保健活動との連携を意識した教育実践を図ることである。すなわち、学校保健内では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の学びを全体的にとらえ、異校種間のつながりを意図した系統性のある指導を展開すること、さらには地域において、母子保健、成人保健(産業保健)、老人保健の各分野との連携を密に、一体的な取り組みができるようにすることが重要である。